

ポケモンから始まった日本への愛

ながれ

ザック ブリッシュ (津軽三味線奏者 (Instagram: @shamisendinglove))

来日の理由を聞かれ、「なんとなく来た」「自分に合ってたので残った」と返すと、ふざけているように思われますが、実は本当のことです。物心付いてからずっと日本に憧れ、保育園で好きな絵を書く時も五重塔や鳥居を描いていました。周りに日本人は一人もいませんでしたが、ポケモンが大好きでした。出張で訪日した父から、「本物のポケモンに会ってポケモンスクールで勉強してきた」と聞いた時、父はこの嘘が息子にどれほどの影響を与えるか考えもしなかったでしょう。しかし、幼い僕は、日本にポケモンが生きていると信じ、日本への愛が段々と増していきました。

年を重ねても、生まれ育ったニューヨークと地球の真反対にある日本への興味は途切れず、11歳で中学校に上がるタイミングで日本行きを考え始めました。その頃には、日本への愛はすでにポケモンを超え、日本文化にすっかり目覚めていました。「飛行機代を自分で稼げたら行っても良い」と母に言われ、それが僕のモチベーションになりました。早速近所で雇ってくれるところを探し始めすぐに、僕の夢を応援してくれる喫茶店でお手伝いさせて頂けることになりました。カウンターのコーヒーマーカーにギリギリ水のピッチャーを注げる140cm以上の身長という条件を満たしたため、心優しいボスが僕の労働を認めてくれました。僕は「Send me to Japan」のメモをチップ箱に貼らせてもらい、お客さんにも夢を応援してもらいました。買いたいものがあったら日本へ行けるように我慢し、喫茶店で稼いだお金はほぼ100%貯金しました。最初は3時間だけ、13歳ぐらいになってからは8時間のシフトも任されるようになりました。6:30

オープンが寝坊しがちな僕には大変でしたが、バイトが難しい年齢にもかかわらず、夢を叶えてくれるところがあったことに心から感謝しています。

そして13歳で夢が叶い、自分で稼いだお金で、日系人の友達と彼の妹の3人で春休みに2週間ほど彼の親戚でお世話になり、最高に楽しい日本旅行を経験しました。その経験から、日本に住みたい気持ちが一層強まり、帰国後は喫茶店のシフトを増やし、ベビーシッターやYouTube動画で募金キャンペーンをし、15歳で1年間の200万円を稼ぎ、東京に留学することができました。

16歳で帰国後も、日本に住みたい気持ちは変わらず、18歳で早稲田大学に入学。数多くのサークルの中で、たまたま最初に見学したのが「三津巴」という津軽三味線愛好会でした。先輩たちの迫力に圧倒され、3分も経たずに決心し、翌日から練習を開始。卒業後、本格的に津軽三味線をやるために笹川皇人さんに弟子入りし修行を開始。そして今年演奏家として独立したところです。

日本の良さを言葉にするのは難しいですが、僕が日本を好きな理由は「良い国だから」です。気遣いや配慮、おもてなし、町の綺麗さ、交通の便利さ、治安の良さ、物価の安さ（家賃や美味しい食事、保険など）などが魅力です。発言や宗教の自由を大切に感じる外国人もいますが、僕は飛行機から降りた瞬間、長い通路を辿るにつれ徐々に感じる匂いがたまたま、なんとも言えない安心感に包まれます。出汁の匂いもあるでしょうが、日本の空気から感じ取れる何かがあって、それが普段の生活で毎日感じられてとても気持ちが良いです。